

I. 法人事業報告

1. はじめに

平成25年度は春日園改築工事の内示が4月1日付で示され、以後土地の拡張売買契約締結、告示、入札、工事着工と多くの難題を取り組み、3月28日完了引き渡しを受ける事ができた。

その間、工事の進捗状況遅延や県の検査での書類提出など多くの時間を費やし、また記録的な大雪は一層の遅れとなった。

一方保護者の死亡など生活の立ちいかなくなる利用者の続出から、平成25年7月、今後のたんぽぽ作業所のあり方検討委員会を設置し、保護者アンケートや同所の実態を調査した結果、入所支援施設を建設しようという結論に達し、深谷市及び埼玉県に相談に伺った。

深谷市では市の障害者プランにも適合し積極的に協力する旨の回答を頂き、3月25日の庁議に於いては、本法人への同作業所の委譲と新施設の便宜協力について了解が得られた。

埼玉県に於いては、入所支援施設建設のスペシャルな理由が欲しいという話で、親亡き後の生活の場の確保、重度心身障害者の対応、市の強力な支援を中心に訴えていく事とし、平成27年7月までに設立計画書を提出できるように準備を進めて行きたい。

ホームに於いては国庫補助により KASUGA のスプリンクラーが整備され、これで全てのホームに設置され、利用者への安全確保が進んだ。

財政的には春日園改築にかかわる追加工事等もあり、大きく流動資産の減少をきたしている中、今後の方向性の為にも経費の節減に一層の努力が必要である。

法人としては人事考課の継続的な勉強会、資格取得の為の補助、成人病検診補助など内部的な充実に一層の前進を鑑み、今後も更に取り組んでいかなければならない。

2. 運営の理念

「人としての夢と希望を持ち、個人の能力を最大限に発揮し、生きがいある人生を掴むように支援します。」を基本に

- ① 利用者に対等な関係に基づく支援
- ② 保護から自立へ向けた支援
- ③ 潜在能力を引き出し、発揮させる支援
- ④ 自由と責任の下、実態に応じた支援

以上のテーマに沿ったサービス提供・事業運営・職員育成を目指す。

3. 理事会開催状況

開催月日	議 事	出席者数
平成25年 5月24日	・平成24年度(福)埼玉のぞみの園事業報告(案)について ・平成24年度(福)埼玉のぞみの園決算報告(案)について ・春日園改築に関する入札について ・同 工事に関する関連工事について ・第3作業棟のスポットクーラー設置に係る入札結果について ・運営規程の改正について	9名 (内: 書面1名)

8月6日	<ul style="list-style-type: none"> ・春日園新築工事及び旧棟解体工事入札の報告と契約の承認について ・平成25年度埼玉のぞみの園補正予算第1号(案)について 	9名 (内:書面1名)
11月 9日	<ul style="list-style-type: none"> ・のぞみの園ホーム KASUGA スプリンクラー設置に関する指名競争入札実施の承認について ・妻沼つくし作業所マイクロバス配備に関する指名競争実施の承認について ・平成25年度埼玉のぞみの園補正予算第2号(案)について ・春日園改築に伴う指定申請並びに第2春日園定員変更に伴う指定申請について 	9名 (内:書面2名)
12月 8日	<ul style="list-style-type: none"> ・第2春日園送迎用マイクロバスの取得について 春日園新築工事進捗状況等について 	9名中 9名
平成26年 2月1日	<ul style="list-style-type: none"> ・平成25年度埼玉のぞみの園補正予算第3号(案)について ・第2春日園送迎用マイクロバス購入について ・深谷市立たんぼぼ作業所送迎用車両配備に関する指名競争入札実施の承認について ・新施設設立に関して ・春日園改築に伴う基本財産処分について 	9名 (内:書面2名)
3月16日	<ul style="list-style-type: none"> ・平成25年度埼玉のぞみの園補正予算第4号(案)について ・平成26年度埼玉のぞみの園事業計画(案)について ・平成26年度埼玉のぞみの園収入支出予算(案)について ・理事長専決事項の改定について ・任期満了に伴う評議員の選任について 	9名 (内:書面1名)

4. 評議員会開催状況

開催月日	議 事	出席者数
平成25年 5月24日	<ul style="list-style-type: none"> ・平成24年度(福)埼玉のぞみの園事業報告(案)について ・平成24年度(福)埼玉のぞみの園決算報告(案)について ・春日園改築に関する入札について ・ 同 工事に関する関連工事について ・第3作業棟のスポットクーラー設置に係る入札結果について ・運営規程の改正について 	(21名中) 21名
8月6日	<ul style="list-style-type: none"> ・春日園新築工事及び旧棟解体工事入札の報告と契約の承認について ・平成25年度埼玉のぞみの園補正予算第1号(案)について 	20名
11月 9日	<ul style="list-style-type: none"> ・のぞみの園ホーム KASUGA スプリンクラー設置に関する指名競争入札実施の承認について ・妻沼つくし作業所マイクロバス配備に関する指名競争実施の承認について 	16名

	<ul style="list-style-type: none"> ・平成25年度埼玉のぞみの園補正予算第2号(案)について ・春日園改築に伴う指定申請並びに第2春日園定員変更に伴う指定申請について 	
平成26年 2月1日	<ul style="list-style-type: none"> ・平成25年度埼玉のぞみの園補正予算第3号(案)について ・第2春日園送迎用マイクロバス購入について ・深谷市立たんぼぼ作業所送迎用車両配備に関する指名競争入札実施の承認について ・新施設設立に関して ・春日園改築に伴う基本財産処分について 	19名
3月16日	<ul style="list-style-type: none"> ・平成25年度埼玉のぞみの園補正予算第4号(案)について ・平成26年度埼玉のぞみの園事業計画(案)について ・平成26年度埼玉のぞみの園収入支出予算(案)について ・理事長専決事項の改定について 	17名

5. 監査

(1) 監事会

平成25年5月25日(土)10時より、加藤・原口両監事により平成24年度社会福祉法人埼玉のぞみの園の事業報告及び決算報告について監査を受けた。

事業報告については、ヒヤリハットと事故報告書の違いの質問等があった。決算報告については、U字溝工事の処理について間違いの指摘を受け訂正した。

(2) 県指導監査

①平成25年度埼玉県社会福祉施設等指導監査は、7月2日(妻沼つくし作業所)と7月17日(深谷市立たんぼぼ作業所)に実施された。今年度は社会福祉施設の運営管理、利用者支援・給付費、財務管理について監査を受けた。指摘事項は以下の通り。また、春日園の書面監査資料を12月19日に提出した。

1. つくし作業所

ア. 給与から法定外控除を行う場合は、労働基準法第24条に基づき、職員の過半数を代表する者等と書面による協定を締結すること。

イ. 個別支援計画は利用者全員に交付すること。個別支援計画書に計画期間を記載して、その期間に合わせて計画の作成をすること。

以上10月9日、回答を提出した。

2. 深谷市立たんぼぼ作業所

特に改善を必要とする事項は認められなかった。

3. 春日園

ア. 消防計画について、消防法令に基づき、変更の届出を行うこと。

②平成25年10月7日、障害児(者)生活サポート事業指導監査が生活支援サービスのぞみ深谷営業所で実施された。指摘事項は以下の通り。

ア. アルバイトの雇用契約書がない方がいたので、雇用契約書を結ぶようにして下さい。

イ. 予約表の時間変更があった時の実績表への記載忘れがあったので、気をつけて下さい。

6. 法人事業の実施状況

事業名	事業実施日	備考
目標設定研修	平成25年4月24日	講師：正木社会保険労務士 法人管理職9名参加
第4回親睦ゴルフ	平成25年4月26日	於：児玉カントリー倶楽部 参加者22名
法人レクリエーション 法人施設職員交歓会	平成25年6月8日	於：深谷市ビクタートル 於：埼玉グランドホテル深谷
施設見学会	平成25年7月23日	参加者13名
新卒採用面接試験	平成25年8月1日・2日	参加者7名、内定決定4名
工賃向上マネジャー研修	平成25年8月5日・9月 9日・10月7日・11月1 1日・12月9日・1月14 日 計6回	講師：(株)インサイト 法人職員参加者11名 はぐくむ会・No Sideと共催
中堅職員研修	平成25年9月24日	講師：正木社会保険労務士「中堅職 員の役割を学ぶ」 5日間の他施設研修 参加者5名
内定式	平成25年10月1日	於：第2春日園就労移行室 参加者：内定者4名
新春職員研修会	平成26年1月6日	講師：たんぽぽ作業所「障害者優先 調達推進法の事例」
新入職員オリエンテーシ ョン	平成26年3月10日	平成26年度入社予定4名へ向けた オリエンテーション

7. 整備事項 (単位：千円)

事業名	事業総額	補助金額	備考
春日園新築工事及び旧棟解体工事	476,700	234,850	埼玉県社会福祉施設等施設整備費補助金及び耐震化等促進事業費補助金
第2春日園パレット棟スポット空調設備工事	5,334	3,800	埼玉県共同募金会
妻沼つくし作業所マイクロバス購入	6,220	3,800	埼玉県共同募金会
のぞみの園ホームKASUGA スプリンクラー整備	3,534	2,321	埼玉県社会福祉施設等耐震化等整備事業費補助金
のぞみ送迎用車いす対応車の整備	1,098	870	日本財団
合計	492,886	245,641	

8. 人事

(1) 理事

① 就任者

役名	氏名	就任年月日	資格等	備考
理事	該当者なし			

② 退任者

役名	氏名	就任年月日	退任年月日	備考
理事	該当者なし			

(2) 評議員

① 就任者

役名	氏名	就任年月日	退任年月日	備考
評議員	該当者なし			

② 退任者

役名	氏名	就任年月日	退任年月日	備考
評議員	米澤 裕		平成26年3月31日	

(3) 職員人事(正規職員)

① 採用者

施設名	氏名	職種	採用年月日	備考
春日園	曾根 晴飛	支援員	平成25年 4月 1日	
	橋本 小百合	支援員	平成25年 4月 1日	
	吉田 鈴	調理員	平成26年 2月 1日	
第2春日園	八木 綾香	支援員	平成25年 4月 1日	

	小林 一紀	支援員	平成25年 4月 1日	
たんぽぽ作業所	野口 結香	支援員	平成25年 4月 1日	
のぞみ深谷営業所	山口 いづみ	ケアスタッフ	平成25年10月 1日	

②退職者

施設名	氏名	職種	退職年月日	備考
春日園	高橋 朋子	支援員	平成25年 5月31日	自己都合
	小川 正幸	調理員	平成25年 8月31日	自己都合
	保坂 あや子	調理員	平成26年 1月31日	自己都合
たんぽぽ作業所	宮浦 きよ子	調理員	平成26年 3月31日	定年退職
のぞみ深谷営業所	田口 美香子	ケアスタッフ	平成25年10月31日	自己都合

9. 施設職員給与等

25年度中の職員の施設別給与支給総額は、次のとおり。(正規職員3月末)

施設名	支給総額	平均本俸	平均年齢	平均勤続年数
春日園	51,701,743	198,767	34歳10ヶ月	5年6ヶ月
第2春日園	51,759,342	232,863	39歳5ヶ月	8年6ヶ月
たんぽぽ作業所	48,636,008	254,950	46歳8ヶ月	16年0ヶ月
つくし作業所	19,253,592	268,600	47歳3ヶ月	17年3ヶ月
のぞみ深谷営業所	29,653,848	253,450	36歳6ヶ月	13年1ヶ月
のぞみの園ホーム	11,223,355	290,700	54歳11ヶ月	16年4ヶ月

10. 各種手続き件数

社会保険	加入手続き	11件
	喪失手続き	8件
	その他	4件
雇用保険	加入手続き	16件
	喪失手続き	9件
	その他	0件
市町村県民税	異動届け	10件
医療機構	加入手続き	11件
	脱会・退職金請求手続き	7件
	その他	2件
共助会	加入手続き	11件
	脱会・共済金請求手続き	8件
	その他	12件
	慶弔手続き	9件
ソウエル	加入手続き	11件
	脱会手続き	8件

	その他	5件
	慶弔手続き	15件

11. その他

	開催数	内 容	構 成 員
施設長連絡会	12	各施設状況報告等	理事長・施設長・事業部長
庶務連絡会	12	本部からの連絡等	本部職員・各施設庶務担当
人事考課委員会	4	人事考課制度の確立	理事長・榎澤理事・小口部長・鯨井課長・田沼課長
たんぽぽ作業所 今後のあり方検討 プロジェクト(あり 方検)。12 月から 入所支援施設建 設検討会に改称	9	たんぽぽ作業所利用者 そして保護者自身の高 齢化に伴い、当法人の 今後の取り組みを考え る	理事長・茂呂理事・滝上評議 員・金谷評議員・榎澤所長・田 沼課長・齊藤

Ⅱ. 春日園の運営

1. 総括

平成25年度事業計画では「生活ステージにあった環境整備とそれに伴う支援・介護等の提供」を目標にあげていたが、平成25年度春日園改築計画に基づき、「機能が重くなっても安心して生活ができることを重点においた新園舎の建設」を実施し、平成26年3月に新園舎完成となり計画は達成できた。今回の建設で、利用者が更に重度化した場合の対応をより深く考える良い機会となり新体制の考察も同時に行った。その結果、より専門技術と知識で対応できるよう課内を作業支援科・日中レク科・医務リハ科に分け、各職員の職務をより明確化した。更に、各科にリーダーを配置した。支援・介護等の提供においては、今までの支援に加わり移乗・排泄・食事等の「介護技術や知識」を必要とする場面が多くなった。その為、移乗のやり方や衣類の着脱等の技術、排泄用品の使い方・選定、嚥下機能にあった食事形態の選定等、基本的介護技術の取得や応用技術等の研修を行い、得た知識や技術の試行を繰り返し、実際の支援・介護を提供した。今後も介護技術や知識の取得の継続を感じた。

2. 入所支援事業

平成25年度事業計画にあげた「安心して就寝できる環境づくり」については、就寝時や起床時、夜間にトイレに起きる際のベッドの乗り降り等が安心して出来るように「手すり付き介護用ベッド」の施設提供を開始した。今後も増台していきたい。又、失禁シーツの衛生保持ができるよう定期交換の他、失禁シーツのレンタルを開始した。「夜間支援員の増員の検討」については、夜間の介護・支援量は大きく変化しなかった為増員は行わなかったが、就寝前の支援量等が増えた為、17:30～22:00 間の職員配置を1名増加し2名体制とした。

3. 生活介護事業

平成25年度事業計画内の生産活動目標を平均工賃 8,000 円としたが、7,363円で未達成となった。「重くても作業のできる環境」については、自助具を活用しカッター作業者を2名増員できたが大幅な生産増には繋がらなかった。日中活動においては「利用者への役割提供」を計画し、金曜日の午後は利用者が中心となる施設内清掃を開始した。「娯楽や趣味のできる環境作り」は、写真の会・園芸の会・大人の塗り絵の会をつくり外部展覧会への出展・施設内作品展を実施した。「運動・外出のできる環境作り」は、frisbee等を中心に市のスポーツ大会に参加した。参加には「計画的に実施した練習に毎回参加した方」を参加基準とし、目的を持った活動とした。外出は、全員順番に実施していた毎月2回の外出支援を4つの買い物コース(衣類・嗜好品・日用雑貨・本等)に分け、目的にあった希望外出とした。又、閉所日のコンビニ外出等も道中の安全性を考慮し3名1組の小グループ外出とした。

4. 短期入所

契約人数6名・利用延べ日数1169名(3.2名/日)となった。緊急受入れ時、今後の目標が設定されないままの受入れがありロングステイとなってしまったことから、利用時にご家族・市区町村・相談支援事業所との連携をもち、目標設定・契約支給量・契約期間の設定を実施し、本来の短期入所の対応ができるよう取り組んだ。

Ⅲ. 第2春日園の運営

1.総括

今年度の作業収入は年間総収入 57,829 千円となり、前年度額の約10%減となった。
今年度の目標工賃は 27,500 円と設定したが、残念ながら 80 円下回ってしまった。

工賃総支給額14,745千円、平均工賃 27,420 円/人(就労継続Bのみ)

期末賞与は支給する事が出来た。

木工班作業棟冷暖房機整備事業では、埼玉県共同募金会の助成によりスポットクーラーを設置することが叶い、年間を通して快適に作業を行っている。

3月に定員の変更を行い就労移行12名⇒6名、就労継続B型40名⇒46名になった。3月より作業開始時間の統一に伴い、送迎の見直しを行った。時間短縮できる様にマイクロバス(20人乗り)中古車両を購入した。

2.就労移行支援事業

12月に大手すしチェーン店へ1名がパート雇用契約となった。また2名が埼玉県立循環器・呼吸器病センターの野外清掃作業の実習を1ヶ月行い、4月1日からの雇用が決定した。

3.就労継続支援B型事業

①食品加工班

10月には経営相談を希望して、県の関係機関より2名の方が2回出張して頂き、相談の機会を設けた。専門家の意見を反映して『はる工房』店舗内の配置替えやメニュー表を工夫し、通りから店舗が目立つ様に看板や掲示版を取り付けて工夫をした。製パン科では、焼菓子の新製品開拓を中心に製造販売に取り組んだが、売上向上には至らなかった。製めん科では、利用者の作業に無理無駄がない様に見直しを行った。大量生産が出来る様な工夫が必要である。

②木工班

パレット科作業棟に共同募金の助成を受けて7月に冷暖房機を設置する事が出来た。パレットの製品、材料の保管場所として以前使用していた屋根つきパイプ倉庫を移転。フィンガー科は、間柱の注文が定期的に入り納期厳守で製造に取り組んで成果を上げる事が出来た。パレット科は材料の価格高騰のため、1社との取引が減った。

③軽作業班

プレス科は、毎月の生産予定数を目標に製造出荷できる様にした。また、担当窓口と連絡を取りながら不良品ゼロを目指して取り組んだ。毎月定期的に作業環境整備日を設けて機械の点検、整備を行っている。ウエス科は迅速に納品する事と、材料の入荷量が減少している為こまめに取引先への連絡を行い状況確認に努め仕入れをした。

④農耕班

2月の大雪の時にハウスの倒壊を防ぐ為にハウス内の暖房温度を通常より高めに設定して対策を取った。ハウス内の湿気による病気、機械の故障に注意をした。ミツバチの投入で品質向上に努めたり、近隣同業者者に相談したりと意見交換に心がけた。

IV. 深谷市立たんぼぼ作業所の運営

1. 総括

平成 25 年度は、4 月の特別支援学校の入所者 2 名をはじめとして、年間で 5 名の新規利用者が入所した。しかし 2 名の利用者が保護者の死亡によって通所継続困難となり、法人内の障害者支援施設「春日園」で緊急に短期入所の対応をしたが、年度途中で退所となり年度末の在籍者は 5 3 名となった。職員は年度末に正規職員 1 名が定年退職、年度途中で臨時職員 3 名が自己都合退職したが、正規職員は法人の新年度採用職員の配属が決定しており、臨時職員はその都度途中採用により補充した。設備面では、木作業棟のエアコンが経年劣化で使用不能となり新規交換し、食品作業棟床の老朽化改修と合わせて深谷市により行って頂いた。また、2 月の降雪により昨年度改修した作業棟の庇が崩壊したため、こちらも深谷市により危険防止のために撤去のみ行い設置は次年度に行うこととなった。

更に、利用者増加と新規施設外就労作業の開始により利用者の送迎が 2 コース増えたが、車両は 1 台を経年劣化のため廃車し、代わりに法人内他事業所から不使用となった車両を購入して対応し、予定していた助成団体（清水基金）への車両申請は不調に終わったため新年度に新たに購入する予定である。

また、埼玉県指導監査課による指導監査が 7 月 1 7 日に実施され、口頭にて食品作業棟床の劣化改修等の助言があったが、文書による指摘事項等はなかった。

平成 25 年度は開設 3 0 周年を迎えた年でもあり、それをも踏まえて下記の様なプロジェクトを展開した。

2. 3 0 周年記念事業プロジェクト

- ① 深谷市マスコット「ふっかちゃん」シールを送迎車や授産商品等に貼付し、事業所を PR して外部に対しての認知度を高めることに努めた。
- ② 事業所開所以来初の海外旅行（グアム）を始めとして、春まつり等各行事に「3 0 周年記念」を冠として付け、様々な形で内外に感謝の意を表した。

3. 工賃向上プロジェクト

就労継続 B 型事業においては、昨年度、地域での自立のため月額工賃 2 万円を目標とする 3 か年の「埼玉県工賃向上計画」の中間年にあたり、下記の作業を新たに開始するなどした結果、年間作業収入は前年度比 1 9 4 % 増の 1 0, 5 3 6 千円を達成し、平均月額工賃も過去最高の 1 3, 3 4 5 円を記録した。

- ① 「障害者優先調達推進法」を活用した「深谷はばたき特別支援学校」での清掃作業を 1 0 月から開始、現在は 3 名の利用者が作業している。
- ② 「就労施設支援事業技術指導員支援制度」を活用し、食品作業において「レストラン・ルクルール」監修により、1 2 月に新商品「たんぼぼガレット」を発売した。

4. たんぼぼ在り方検討会プロジェクト

事業所の長期利用者の高齢化は保護者の更なる高齢化をも意味し、昨年度も保護者死亡による退所者が 2 名生じたように、親亡き後や重度者対応は早急の課題である。その

ため法人理事長を座長に在り方検討会を7月から9回実施、重度者対応入所施設建設を目指す方向性が出され、埼玉県及び深谷市とも協議し、深谷市からは施設建設のために便宜等ご協力が頂けるとの結論まで進むことができた。

V. 妻沼つくし作業所の運営

1.概要

利用者定員について、就労継続支援B型の利用者は12名と3名の欠員で、生活介護利用者は、新卒者も加わり14名と1名の欠員となった。また、保護者の協力もあり、通院時終了後も作業所へ出勤して頂いた。

地域への協力として、毎月の商店会販売やめぬま祭りの出店等実施した。

2.就労継続支援B型事業

軽作業(もぎ取り・再生作業)は、全体的に下降気味で、材料の増は期待できないことが先方から話があった。そのため、「メモノート製作」の新規作業の導入を行なった。リサイクル回収作業(古紙関係・アルミ缶)は、順調に依頼があり増収に繋がった。農作業については、農耕ボランティアの方々のご協力のお陰で、土地の有効活用に取り組むことが出来た。また、地元の農家さんから休耕地の紹介があり、作業所を中心とした田畑の借地に切り替え、遠方の田畑は返却した。一方、生産についての計画的な取り組みが不足し、数か月収穫のない月があり、今後の課題となった。

派遣事業(農耕派遣)は、今年度も契約を行ない「にんじん」「ネギ」等実施することができ、売り上げに繋がった。

販売関係は、季節の野菜の販売を行なうことが出来たと共にスーパーの地場産コーナーへ納品し、ほぼ完売する事ができた。年間を通して野菜の提供が出来るようにするのが、今後の課題である。

今年も熊谷市の障害者作品展参加賞品の委託を受けた。また、群馬県にある自動車総連様から、記念品の依頼もあり、大きな収入となった。

3.生活介護事業

目標による実施内容

毎月ごとに目標を立て、実施する事が出来た。また施設内外を問わず、多くの行事に参加した。一番大きな目標としては、今年も熊谷市障害者作品展に、全員の作品を出展する事が出来た。

4.土曜開所日

年間を通し数日間ある土曜の開所日には、作業所内レクレーションや地域公共施設への見学等を実施してきた。

5.その他

自主生産の開拓

季節の小物を製作し、評判良く売り上げもあった。また、自動車販売店からの店内展示品の依頼が今年もあり、2回程納めることが出来た。

VI. 生活支援サービスのぞみ深谷営業所の運営

1. 埼玉県障害児・者生活サポート事業

昨年度に続き、利用についての制限が厳しくなったことや、深谷市の利用者自己負担額の増額などがあって、生活サポートの利用は減少している。特に通院や通学での利用規制が大きな要因である。それでも決してニーズが無くなったわけではなく、朝と夕方時間帯では予約に応じられないこともあった。生活サポート事業はあくまでも他の障害福祉サービス事業の補助的なものという位置付けになっているが、利用者にとって必要なサービスであると考えている。

① 『外出援助』サービスについて

平成24年度から深谷市の自己負担金額が増額されたこと、生活サポートを利用した通院付添が多く市の町村でできなくなったことから、年間利用時間－19.3%、年間利用件数－14.3%であった。

② 『送迎』サービスについて

年間利用時間－19.4%、年間利用件数－16.7%になった。
送迎サービスは福祉有償運送に位置付けられ、講習会における資格の取得が必須の条件であり、のぞみのスタッフは有資格者が大半を占める。

③ 『一時預かり』サービスについて

児童デイサービスの利用増加に伴って一時預かりの利用は増えている。年間利用件数は＋9.3%、年間利用時間は＋23.5%だった。

④ 『介護派遣』サービスについて

年間利用時間は－7.5%、年間利用件数は－29.9%であった。

2. 児童発達支援及び放課後等デイサービス事業

平成24年度の1日の平均利用者数16名対し25年度の平均利用者数は18名と増加した。年間売上高も24年度 28,548 千円、25年度売り上げは 31,544 千円と10%増となった。利用定員が20名の為、26年度以降は年間 31,500 千円前後が売上げ上限額と予想される。

利用者の個別支援計画は一部実施されたものの全体としては実行されず課題が残った。
利用者の事故や怪我也も例年に比べてほとんど無く、擦り傷程度に抑えることができた。

3. 居宅介護事業

① 身体介護

夕方からの支援が多く、入浴支援を主として行なっている。昨年に引き続き、利用時間の調整を図りつつ、支援を行なった。

② 家事援助

掃除、調理の支援を行なっているが、掃除での支援が主となっている。

4. 重度訪問介護

現在は、必要時に応じて1名が利用している。支援内容としては、洗濯が主である。

5.同行援護

一昨年、10月から視覚障害の利用者のガイドヘルプとして、視覚障害者を対象とするサービスとして始まった。本年は2名の利用があり、昨年度同様長時間のガイドヘルプが主であった。

6.移動支援事業

利用状況としては、熊谷、深谷、本庄の利用者様は継続した利用があった。年間総利用人数では、前年度比-7.7%であったが、年間総利用時間でみると前年度比-30%であり、前年度に比べ大きく差が出てしまった。年間売上高は前年度比-18.8%であった。

7.相談支援事業

平成24年度は35名の計画相談と6名のモニタリングを行なったが、平成25年度は51名の計画相談と84名のモニタリングを行ない、昨年度と比較すると約3倍の相談件数となった。平成27年度末までに全ての障害福祉サービスを利用している方の計画とこれから障害福祉サービスを利用する方の計画を作成するため、平成26年度も増加していく予想ができ、また昨年度と今年度の方々もサービスを使っている限り、モニタリングを行なうことになるので、件数は増加していくこととなる。

Ⅶ. のぞみの園ホームの運営

1.入居者の状況

KASUGA ホームの女子1名が4月20日に退去、5月7日に長期実習をしていた「たんぼぼ作業所」の女子利用者1名が KASUGA ホームに入居し、定員の30名になった。平成25年3月から春日園に短期入所していた「とびたホーム」の入居者が、訓練を重ね8月1日にとびたホームに戻る事ができた。

3月末では、第2春日園通所者26名、たんぼぼ作業所通所者1名、就労されている方が2名おりホーム生活の支援を行った。就労していた1名の方は3月末で契約が終了し現在活動の場所を探している。

2.生活サポートの補助

ホーム生活の負担軽減を図るため、生活サポートを利用する方の補助を規定に従い継続した。

3.世話人・支援員の配置等

4月に県への体制届提出を行ったが、入退居や区分変更に伴い5月と翌年3月に支援員の配置変更があり、再提出を行った。

4.体験実習

たんぼぼ作業所から依頼があり、KASUGA ホームの居室を利用して、たんぼぼ作業所の利用者を1人1か月間の実習を8月から6名受け入れた。この体験実習は、26年度も引き続き3名の方を予定している。

5.防災

昨年度、KASUGA ホームに設置した AED の使い方を教えてほしいと近隣の方々から依頼があり、4月11日に田中北自治会第2公民館にて普通救命講習 I を近隣の方14名と職員2名が受講した。7月22日には、深谷消防署において普通救命講習 I を4ホーム12名が受講した。また、入居者の通報・避難・消火訓練を各ホーム年2回行った。

県の耐震化整備事業(スプリンクラー整備)の補助を受け、KASUGA ホームにスプリンクラーを設置することができた。これで4ホームすべてにスプリンクラーが整備され、避難時間の確保が図られた。

6.修繕等

事業計画に予定していた1号館のスロープを入居者だけで使用できるように改修を行ったほか、1号館では給湯ボイラーの修理、居室のエアコンの交換。2号館では給湯ボイラーの修理。KASUGA ホームでは老朽化した非常灯の交換、暖房便座の交換。とびたホームでは給湯ボイラーの交換、トイレタンクの交換、廊下等に手すりの取り付けを行なった。

7. ホーム会議・研修について

毎月一回のホーム会議を行い、世話人・支援員の情報交換や意見交換を行った。また、意識向上を図るため研修参加も行った。